



レポ市場を巡る最近の動き

2015/5/14

セントラル短資株式会社

マーケット営業部

債券レポグループ



量的質的金融緩和を前後としたレポ市場の変化について

- **2013年の「量的・質的金融緩和」以降、他の短期金融市場では残高が低水準で推移している一方で、レポ市場の残高は増加傾向。**
- **レポ市場の3月末残は日証協集計ベースで100兆円を超えている。**
- **低金利が恒常化する中、市場参加者のGC・SCへの関わり方が変化。**
- **SC市場で取引される銘柄の変化。**
- **GC市場のボラタイルな状況。**



SCLレポについて

- 2年債は入札レートの低下とともに流動性の低下が懸念。
- 5年債に関しては、現状、比較的流動性は厚い印象。
- 10年債は買入オペの動向に大きな影響を受け、カレント銘柄にオファーが出難い状況が多く見られている。
- 20年債はリオープンが原則となった時期以降、タイト化するような動きは限定的。
- 30年～40年債は、買入オペのオファーにより一時的にタイト化する銘柄が見られたものの、比較的流動性は厚い印象。

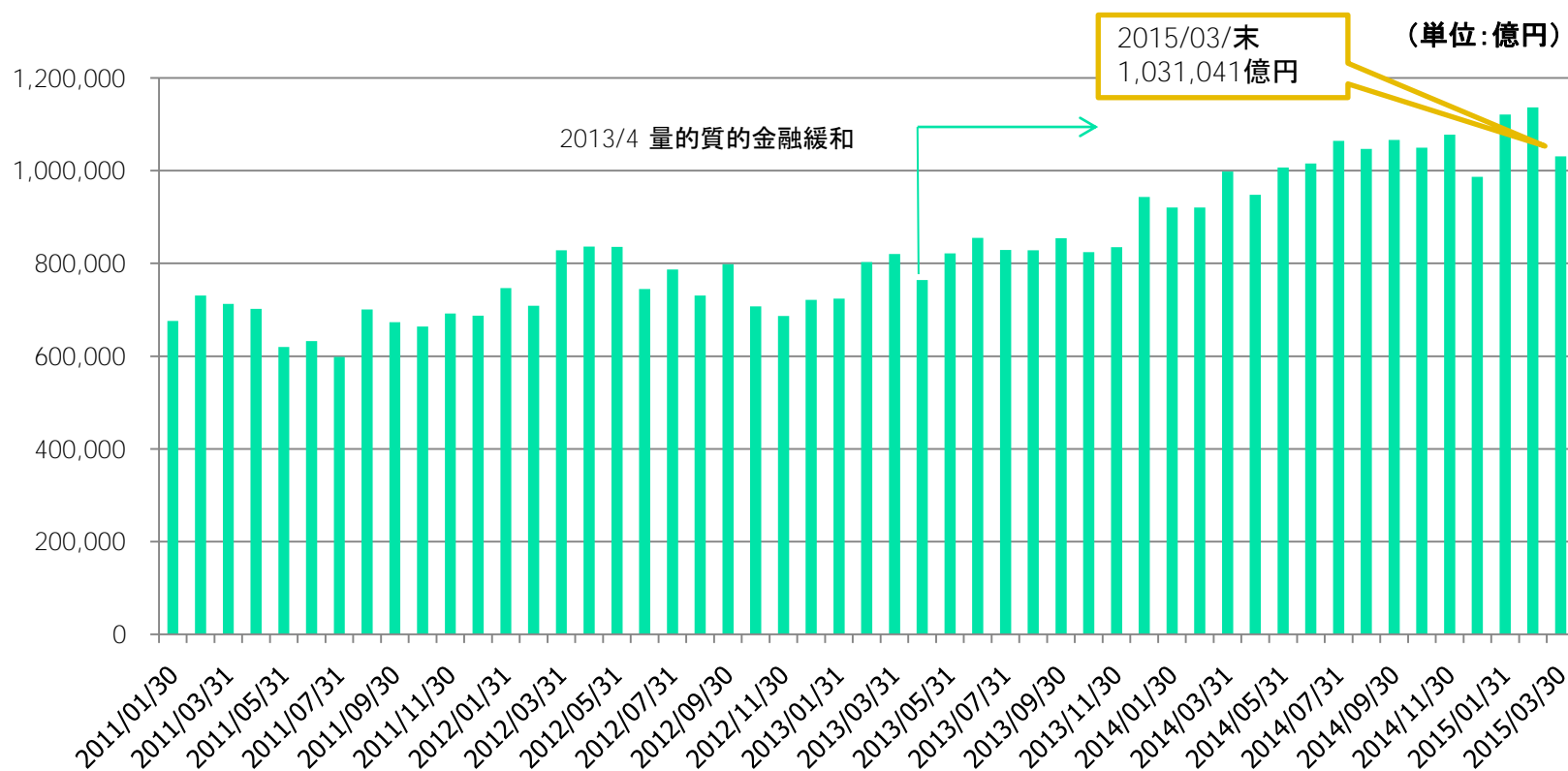


GCLレポについて

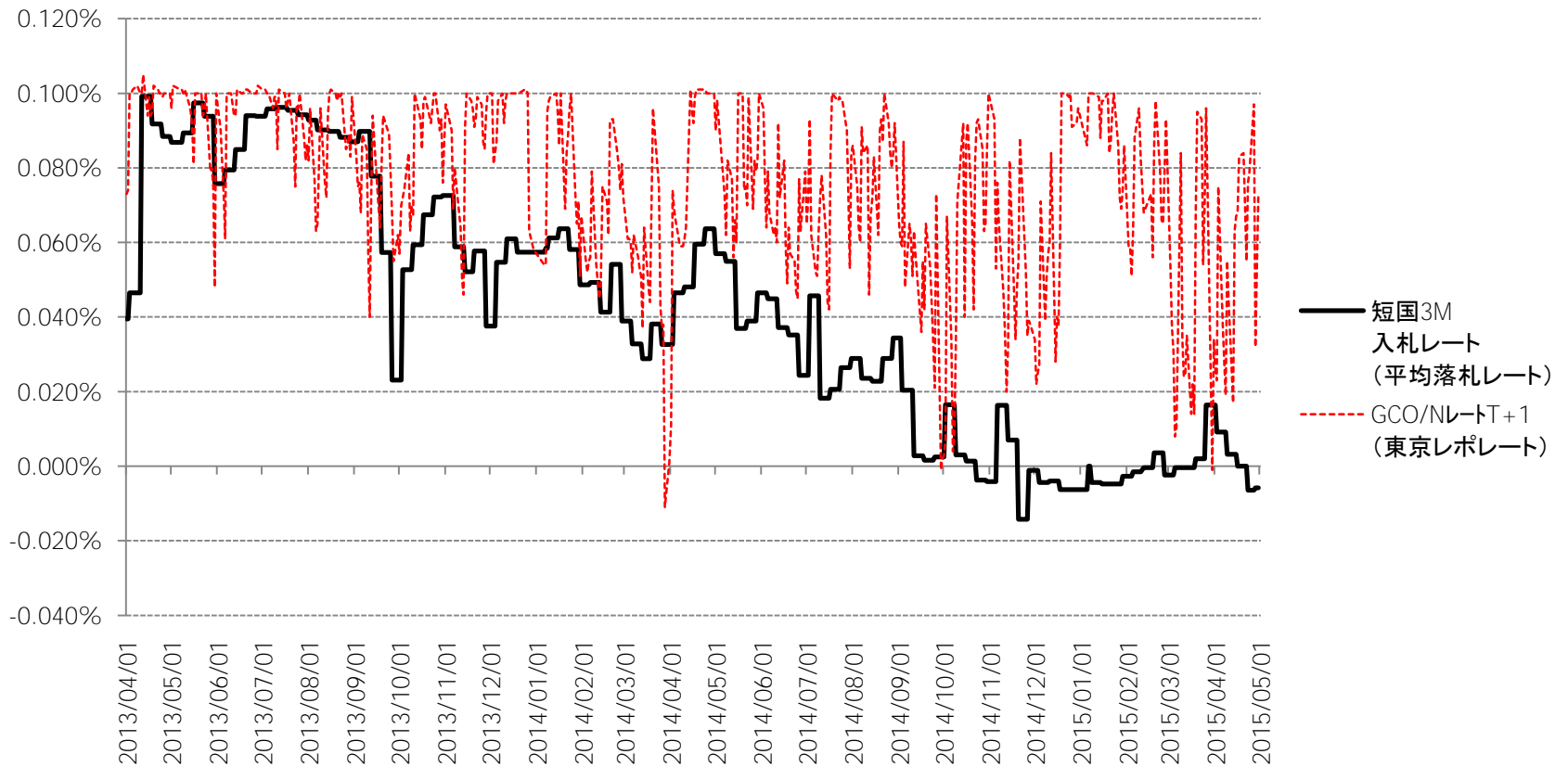
- 付利金利との裁定取引の活発化により、調達サイドの参加者が増加。下値を支える要因に。
- 付利金利以上では、資金運用ニーズが厚く、GCLレポで資金調達ができない懸念はほとんどない。
- 資金調達ニーズが枯渇する状況も散見され、資金運用サイドには厳しい。
- 週を通して、安定せずボラタイルな状態。
国債発行日にレート上昇、買入オペの実行でレート低下。

現金担保付債券貸借取引月末残高

(出所:日証協)



GCO/N・短国3M入札レート (出所: 入札レート財務省 東京レポレート日証協)



月末市場残高(比較) (出所:レポ市場残・日証協 コール市場残・短資協会)

